



ちよっぴりこわくて たのしいおはなし

えほんいろいろ NO. 168

2025年10月 富田林市立図書館

『だれかがきたよ』

得田 之久／ぶん

垂石 眞子／え

福音館書店（2024 年）

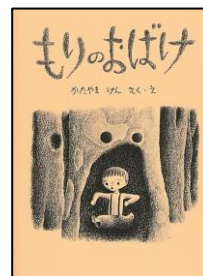


よる、えほんをよんでいるとピンポーンがなり、げんかんに、あひるがうきわをもってたっていました。いっしょにおふろへはいると、つぎはパンダがやってきました。そのあとにわにがやってきました。つぎつぎとどうぶつがやってきてにぎやかなよるになりました。

『もりのおばけ』

かたやま けん／さく・え

福音館書店（2011 年）



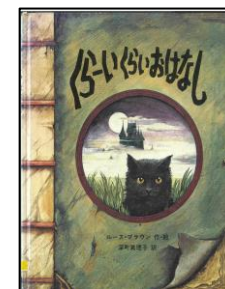
ぼくとおとうとは、もりのなかまでかけっこをした。ぼくのほうがはやいから、たちまちおとうとは見えなくなった。でも、このもりのなかは、なんだかきみがわるい。おとうとはまだかな。「おーい」とよぶぼくのこえにこたえたのは…？

『くらーいくらいおはなし』

ルース・ブラウン／作・絵

深町 眞理子／訳

佑学社（1987 年）



あるところに、くらーいくらいあれちがありました。あれちには、もりがあります。くらーいくらいやかたの、くらーいくらいドアをとおって、くらーいくらいろうかをぬけて、おへやにはいると、くらーいくらいとだながひとつ。くらーいくらいすみっこには？

『いじわるなないしょオバケ』

ティエリー・ロブレヒト／作

フィリップ・ホーセンス／絵

野坂 悦子／訳

文溪堂（2009 年）



サラはママのしんじゅのくびかざりをこわしてしまった。「どうしたの？」ってきかれて「ううん、べつに」ってこたえると、くちからオバケがとびだした。ないしょにするたびふたつめ、みつつめとどんどんふえて、いえのなかは、ないしょオバケでいっぱいになった。

『おやつどろぼう』

阿部 結／作

福音館書店（2025 年）



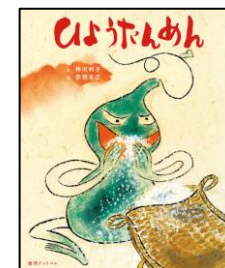
アカーキーは、おかあさんがかくしたケーキがきになって、ねむれません。さがしにさがしてケーキをみつけたけれど、しましまのいきものが、れいぞうこのつうろからケーキをぬすんでいくのをみてしまい、いそいそおいかけました。ケーキはとりもどせるでしょうか。

『ひょうたんめん』

神沢 利子／文

赤羽 末吉／絵

復刊ドットコム（2017 年）



おとじろうまごじろうは、かいものがえりの山みちで、おばけのひょうたんめんにであいます。かつてきたしお、つれていたうまをたべられてしまい、つぎはいよいよじぶんがたべられるばんがやってきました。むがむちゅうでおとじろうまごじろうはちえをしぼります。